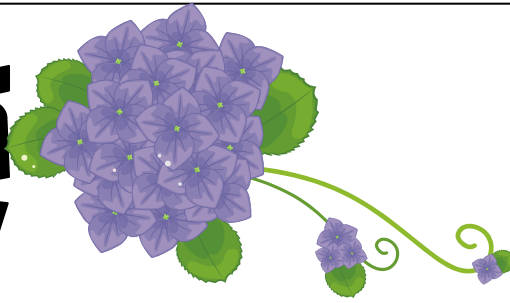


産地直送便



発行(農)山形おきたま
産直センター
山形県南陽市漆山 1068
TEL 0238 (47) 7338
<http://www.okitama.net/>
2013.7.1 発行
責任者 星 隆之

産地交流会開催

～田植え交流会～



6月2日～3日に東京土建一般労働組合練馬支部の皆さんと田植え交流会を行いました。

置賜にお越しになるのは数年ぶりでしたが、田植えの腕前はかわらず、1時間半程かけて田んぼ1枚を頑張って植えて下さいました。

昼食交流では、地元漆山班のお母さん方が作った郷土料理を囲み生産者と一緒に頂きました。

その後、食の安全とTPPについて学習会を行い、夜には、かみのやま温泉にて懇親会を行いました。

消費者の皆さんとお酒を飲む機会はなかなかないので、交流会に来て頂き直接顔を見ながら皆さんのご意見、ご要望を伺ったり、生産者の農産物栽培への情熱や苦労話を聞いて頂いたり、とても良い時間を過ごす事が出来ました。

翌日の山菜採りでは、わらびなどビニール袋いっぱいのお土産が出来ました。



～さくらんぼ狩り交流会～

6月30日に地元新婦人上杉班の皆さんとさくらんぼ狩り交流会を行いました。

さくらんぼ狩りの他、アイガモ圃場の見学、昼食交流では地元金沢/赤湯班のお母さん方の手作り料理を頂きながら交流を深めました。



震災以降、交流会の回数が減っていましたが、今年の春は複数組織と交流する事が出来て生産者、職員共々大変うれしく思います。また、来年もお待ちしております。

ぜひ、山形置賜の大自然を満喫しにいらして下さい。

就農2年目の竹田聡です。私の家では去年からチェーン除草での有機栽培に挑戦しています。水田の中をチェーンを引っ張ることで、雑草の種や活着しかけた根を浮かせたり、ダメージを与えることで除草効果が期待できます。私の家では中古の田植機を改造してチェーン除草機にしています。今年は6月上旬の好天で稲の生育が非常によく、今のところ非常に順調です。



ぶどう（デラウェア）の房作り

みなさんこんにちは。私は就農19年目、39才の近野と申します。米と果樹(ぶどう・ラ・フランス)を栽培しています。今回はぶどうの房作り作業について紹介します。りんごや梨の実が大きくなっていくように、ぶどうも小さな房がだんだん大きくなっていくのですが、その生長段階で、房の長さや粒の付き方を調整する「摘房」と「摘粒」という作業が行われます。

まず摘房ですが、房の状態を整える作業です。長すぎると熟しにくくなるので、房の上部の粒をまとめて取り除き、適正な長さにします。続いて摘粒です。粒が付きすぎていると、小粒なぶどうになるのはもちろんですが、だんだん粒が生長するにつれお互いに押し合い実割れをおこしてしまいます。このようなことにならないように、ピンセット・はさみ等で粒を抜き取ります。個人的にはこの摘粒がぶどう作りのなかで一番苦手な作業です。



房作りは手間がかかって根気がいらしますが、良いぶどうをお届けできるように、一房一房丁寧に行っています。

産直米変更連絡用紙 山形おきたま産直センター行き → **FAX 0238-47-7318**

お休みや重量変更などのご連絡は、お届け日の10日前まで受付。FAX送信日 月 日
 お客様コードNO (納品請求書の左上 5桁のコードNO)

氏名	様	☎	—	—
<input type="checkbox"/> お休み連絡	月	日	お届け分のみお休み	
	月~	月	までお休み	
<input type="checkbox"/> 変更連絡	月	日	お届け分の変更	
~変更内容~				